入我室、一作懷　曉如白雲圍我牀、我心久養浩然氣、亦欲與爾表裏相輝光、爾不見當今甲第與王宮、織成步障錦屏風、綴珠陷鈿貼雲母、五金七寶相玲瓏、貴豪待此方悅目、然肯寢臥乎其中、素屏素屏、物各有所宜、用各有所施、爾今木爲骨兮紙爲面、捨吾草堂欲何之、

〔鄴中記〕石虎、作金銀鈕屈膝屏風、衣以白縑、畫義士仙人禽獸之像、讃者皆三十二言、高施則八尺、下施四尺、或施六尺、隨意所欲也、

〔朱氏談綺下器用〕屏風ビヤウブ　又圍屏

〔釋日本紀二十一秘訓〕屏風ヒヤウフ

〔伊呂波字類抄比雜物〕屏風ヒヤウフ

〔下學集下器財〕屏風ビヤウブ　屏退也、卽退風之義也、

〔撮壤集中飾具〕屏風ヒヤウフ

〔藻鹽草十七調度〕屏風

もろこしの屏風のこと、此子細神樂の所にあり　屏風一ひら、枚、源氏、あじろ屏風、源氏、蘆屏風とかく、障子のほれの樣にして、黑漆にして網代をくみて、糸にてとぢ付る也、屏風には心をたていおもひけん行者はかへりちごはとまりぬ、びやうぶの浦にて西行よめり、　屏風の浦、名所也

〔和爾雅五器用〕屏風ビヤウブ　貼金屏風キンビヤウブ　畫屏風エビヤウブ　圍屏テリビヤウ　六曲屏風ロクマイビヤウブ

〔和漢三才圖會三十二家飾具〕屏風ひやうふう

屏所以蔽也、有畫屏、繡屏、金屏、石屏、格子屏等之制、事物紀源云、禮明堂位、天子負斧扆而立、則屏風名出於漢世、

按、屏風大抵高六尺以下而六曲也、矮小者爲枕屏風、濶而二曲者俗稱廉手屏風、其矮者稱茶爐前、皆兩面貼紙、其法、骨格縛ホネシバリ　蓑張ミノハリ　蓑縛ミノシバリ　泛張ウケハリ　表張ウハハリ

〔倭訓栞中編二十一比〕びやうぶ　屏風なり、日本紀より見えたり、から繪やまと繪などふるくいへ